

生活資源の課題とICTの貢献方策 (重点分野の絞り込みの検討ポイント)

1. 検討の視点

- ◆ ①資源そのものを増やす、②需給マッチングによってロスを減らす、③消費を効率化する、という視点が必要【江村構成員】
- ◆ ①国内市場創出と国際競争力向上、②国内／国際の市場規模、③必要なICT技術と標準化、という視点が必要【藤原構成員】
- ◆ ①国民生活への影響、②ビジネスオポチュニティ、③必要な技術・標準化、を時間軸で見極めて方針を決めるべき【所構成員】
- ◆ 生活資源連鎖やグローバル連鎖を考慮した生活資源配分を考慮すべき【土井構成員】
- ◆ 生物多様性やエシカルリソース等の非経済的な要因との為替レートをどう設定するか【村上構成員】
- ◆ ICTの利活用の費用対効果を評価する仕組み作りを検討すべき【近藤構成員】
- ◆ 日本だけでなく、ウィズ・ジャパンとして大きなエコシステムを作り、その中で日本企業と海外企業が大きなマーケットを目指す視点が必要【吉田構成員
(杉原代理)】

2. 検討の方向性

- ◆ 日本の強みが活きる領域を絞り込むべき【谷川構成員】
- ◆ 国内の雇用を生み出すような取組・環境が必要【須藤座長】
- ◆ 世界最高水準の社会的利用効率（供給サイドと利用サイドの2つの流れ）を達成するスキルやノウハウを体系化【村上構成員】
- ◆ 世の中の無理・無駄・ムラをビックデータを活用して処理することで、新しい産業のビジネスチャンスが出てくる【渡邊構成員】
- ◆ 見える化し、分析し、マネージし、評価するという流れの各々でICTで出来ることを整理すべき【村上構成員】
- ◆ 人と物と空間、情報がシームレスにつながり、様々なものを分析、可視化、予測し、新しい価値を創造することができるICTを活用した社会基盤を構築できれば、それ自身が新しい日本のビジネスとなる【角構成員】
- ◆ センシング関連の産業規模は必ずしも大きいと言えないが、イベントを検知するための信号処理の部分はノウハウの塊になるので、しっかり担保していくことが必要【森川構成員】
- ◆ ①技術の確立（研究開発）、②実用化の検証（海外展開を含む実証実験）、③制度の確立（社会的問題の整理等）が必要【江村構成員】